

デイケアのぞみ通信 VOL.79 夏号

いよいよ本格的な夏が始まろうとしています。皆様、いかがお過ごしでしょうか？風鈴の音や花火の音を聞くと「夏が来たな」と感じます！ところで風鈴や花火のように夏を感じるものは夏の風物詩と呼ばれますが、それぞれどんな歴史や由来があるのでしょうか？今回はそんな夏の風物詩の歴史や由来について少しご紹介します。新たな発見があるかもしれません！？

夏の風物詩①：風鈴

中国から青銅製の風鈴が伝わり、お寺の幹の四隅に吊るし、魔除けとして使われていました。江戸時代中期からガラス工芸が盛んになり、次第に夏を楽しむための風鈴が作られるようになりました。ガラスのきれいな音色を楽しみたいですね！



夏の風物詩②：花火大会

1733年、江戸時代に隅田川で開催された水上祭りははじまりとされています。飢饉や疫病で多くの死者が出ていたため、死者を弔うために打ち上げられていたようです。その後、江戸の川開きの定番行事として、花火大会は広く行われるようになりました。たまや～～！！

夏の風物詩③：かき氷

清少納言の「枕草子」に上品な物として「削り氷(けずりひ)」の記載があります。当時は冷凍技術がなかった為、超高級品でした。1869年頃から次第に庶民に届くようになったようです。ちなみにかき氷を食べて頭が痛くなる現象は「アイスクリーム頭痛」と言います！



健康に気をつけて、暑い夏を乗り切りましょう！！

次回は秋号 10月 発行予定ですお楽しみに